

わが

「三助の精神」で地域再生を図る

財政健全化に向けた正念場

長井市は山形県の西南部に位置し、東部になだらかな出羽丘陵地帯、西部に朝日山系の険しい山岳地帯、南部に標高約200mの盆地が広がる緑豊かなまちです。私が市長に就任した平成18年12月当時、本市の財政は、まさに危機的状況でした。前市長のご努力により緊急事態は免れていたものの、平成18年度の実質公債費比率は、27・7%と厳しい状況でした。

そのような危機的状況の中、平成19年度を「財政危機脱出元年」、20年度を「財政健全化に向けた正念場」と位置付け、徹底的な無駄の排除と痛みの伴う聖域なき行財政改革を進めてきました。

幸いにも、市民の皆さまの温かいご理解とご協力により、ようやく少しだけ出口が見えつつある状況

況となりましたが、一層の努力を重ね、財政のさらなる健全化を目指しております。

改革の理念

「三助の精神によるまちづくり」

昨春秋以降の金融危機は、日本を含めた世界経済に深刻な影を落としております。100年に一度といわれているこの危機的状況は、中小企業の製造業を中心としている本市の経済にも甚大な影響を与えております。そこで、本市では昨年末に緊急経済対策本部を設置し、運転資金の融資対策を講じ、相談窓口を開設するとともに、産業の活性化策として地場産品の地産地消運動や地元商店で使うことができる1割のプレミアム付き商品券の発行などに取り組みしました。このプレミアム付き商品券は1億円分を準備しましたが、2日で売

り切れるほど好評でした。これから経済効果が出てくるものと期待しているところです。

また、ここ10年来、本市に大きなのしかかる3つの課題として、地域経済の長期低迷、少子化を伴う人口減少、財政の危機的状況が挙げられ、いかに活路を見いだすかが問われ続けてまいりました。そこで、私は米沢藩の財政を立て直した上杉鷹山公の藩政改革に学び、「三助の精神」に基づくまちづくり施策を推進しております。

その一つ、「自助」として、市民所得の向上と雇用の創出を目指しております。鷹山公も学んだという直江兼続公の殖産興業の精神を本にし、山形大学人文学部の先生を中心とした60人以上の市民委員による「まちなか活性化」「観光マーケティング」「工業振興」「農産物ブランド化」など、経済再生への



地域循環システム「レインボープラン」に取り組む市民の様子

心となり、地域一体で取り組んでいただいている「花いっぱい街づくり」は、市民の皆さまはもちろんのこと、本市を訪れる人々の心を和ませてくれます。

そして、三つ目の「扶助」は行政がなすべき役割です。少子高齢化への対応として、子育てに関する窓口を「子育て支援室」に一本化す

ることにより、子育て支援をさらに充実してまいります。また、高齢者の方々のために、高齢者サポート相談員を配置し、介護をはじめ、健康づくりや生きがい活動など、訪問相談を行います。そのほかにも、市民の皆さまが安心して元気に生き生きと暮らすために、さらなる医療、介護などの福祉の充実を図るとともに、「長井の心」を中心とした人材育成、文化やスポーツ振興に全力を尽くしてまいります。

これらを実現するためには、心の通った真に市民の皆さまに信頼される市役所づくりが大切です。私が市長に就任した当初から実施している「お客様サービス向上運動」(「Smile」「Speed」「Simple」)の3S運動を徹底し、職員自らが「三助」の精神を大切にしよう、職員の意識改革に努めていきたいと考えております。

市民と共により、希望あるまちをつくる

昨年、大変喜ばしいことに行政、市民、市内の中核的団体(農業協同組合、商工会議所など)の代表者で構成する「レインボープラン推進協



長井市長 内谷重治

プロフィール

- ◆ 面積 214・69 km²
- ◆ 人口 2万9994人
- ◆ 世帯数 9682世帯

〔将来都市像〕協働・創造・未来の鼓動 実感。ながい。

〔まちの特徴〕豊富でおいしい水に恵まれるとともに、豊かな自然に囲まれ、四季折々に花が香る「水と緑と花のまち」

が視察にきています。このプランは、市民の皆さまからご提案いただき、行政がサポートしながら実践するとうい、まさに「協働」で成り立っております。この取り組みを通して、子孫に誇り得る循環型社会を長井のまちからはぐくんでいきたいと思っております。これからも、このレインボープランをはじめ、さまざまな形で市民の皆さまと力を合わせながら、共に希望あるまちづくりを進めていきたいと考えております。

〔特産品〕レインボー野菜、けん玉、地酒、スイカ、リンゴ、イチゴ、サクランボ、ラ・フランス

〔観光〕伊佐沢の久保桜、草岡の大明神桜、白つじ公園、あやめ公園、長井市古代の丘資料館、文教の杜ながい

〔イベント〕黒獅子まつり、あやめまつり、ながい水まつり、全国白つじマラソン大会、ながい雪灯り回廊まつり



※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。



白つじまつりイベントのメインを飾る「ながい黒獅子まつり」

心のかような健康都市を目指して

まちづくりの今昔

立川市は、東京都の西部に位置する多摩地域の交通の要衝です。国土交通省から首都圏の「業務核都市」に指定され、商業や業務などの集積が図られるとともに、文化、研究、防災などの広域的な都市機能も整備され、拠点形成が進められています。

まちの発展の先駆けとなったのが、明治22年の甲武鉄道(現在のJR中央線)の開通です。本年、中央線は開業120周年の節目を迎えました。また、本市も昭和15年12月の市制施行、38年の旧砂川町との合併を経て、来年には市制施行70周年を迎えます。



JR 立川駅北口と多摩都市モノレール

が参加し、市民が相互に交流を深め、郷土意識を高める夏の祭りとして定着しており、本年度20周年を迎えます。

一方、JR立川駅南口では8月末に「立川の夏・祭」が開催されます。これは、長い歴史を誇る立川諏訪神社大祭に合わせて南口全体で行われる夏祭りです。商業振興と地域社会のより一層の連携を目指すものです。毎年20万人もの人々が訪れ、昨年は東京都が主催する「第4回東京商店街グランプリ」のイベント事業部門で準グランプリ

た。第2次世界大戦後、立川飛行場は米軍に接収されたため、本市は長い間、「基地のまち」として歩みましたが、昭和52年に地域の中央部を占める立川基地が全面返還され、基地跡地とJR立川駅の南北の開発による新たなまちづくりが始まりました。

そして、現在、中央線は連続立体交差化事業による高架化が進み、交通渋滞の原因である開かずの踏切の改善につながっています。また、多摩地区を南北に結ぶ多摩都市モノレールは、多摩都民の足として定着しています。いずれも多摩地域全体の交通やまちづくりに大きく寄与しています。JR立川駅周辺では、区画整理事業や再開発事業によるまちづくりが進み、ペDESTリアンデッキ(歩行者専用通路)が整備され、デパートやシネマコンプレックスなどへの来訪

者も多く、にぎわいの中心となっています。基地跡地には、国営昭和記念公園、立川広域防災基地、自治体大学校、国立国語研究所などが整備されたほか、近代的なビルが立ち並び、世界各国の109ものアート作品が街並みに溶け込むファール立川などに代表される業務市街地が形成され、大きく生まれ変わりました。

「わがまち立川」の再発見

この新しい都市空間では四季折々に、さまざまなイベントが開催されています。JR立川駅の北西に位置し、有料国営公園として入場者数日本一を誇る国営昭和記念公園では、早春に「立川・昭島マラソン」、春と秋に「楽市」、夏に「花火大会」、秋に「箱根駅伝予選会」が開催されます。特に、花火大会は昭和29年から行われており、歴史



サンサンロードで開催される「立川よいと祭り」の民踊ながしの模様

を受賞しました。これらのイベントは、出演、出店はもとより、事前の準備から当日の清掃ボランティアまで、さまざまな場面に市民の方々が参加していることが大きな特長といえます。

また、「フィルムコミッション事業」にも力を入れています。アート作品が並ぶファール立川では「ごくせん」、青空にモノレールの車体がきらめくサンサンロードでは「モンスターパーアレント」「魂萌え!」、廃校となった小学校を利用したたまがわ・みらいパークでは「女王の教室」「スクラップ・ティーチャー」教師再生」など、市内各地が映画やテレビドラマの撮影、あるいは漫画の舞台となっています。街角での撮影風景を目にすることも多く、画面やスクリーンなどを通して見慣れた場所に新たな表情を見ることが、「わがまち立川」への関心と愛着がより強くなったと多くの市民に注目されています。

生活重視のまちづくり

まちづくりの進展とともに、治安に対する不安の声も大きくなってきました。市民生活の安全・安心の確保は重要な課題です。特に、

防犯活動については、地域社会との連帯と市民の防犯意識の高揚が不可欠です。本市では、誰もが住み慣れた地域で、心身ともに健康で生き生きと安心して暮らしていけるよう、警察、自治会、地域団体、事業者との連携による「安全安心パトロール」、市職員による「青色防犯パトロール」などを実施し、事故や事件を未然に防いでいます。また、不審者情報の携帯電話への配信による情報の共有、防災行政無線による「子どもの見守り放送」

の実施も大きな予防効果を生んでいます。21世紀初頭の立川の創造は、市民との対話と協働なくしてはなし得ません。新しい立川の創造に当たり、「行財政改革」「環境、まちづくり」「教育、子育て」「安全、福祉」の4つの分野において重点項目を掲げ、全市の英知を集結して取り組んでいます。生活重視のまちづくりのために市民との対話を重ね、持続可能な市政運営に全力を尽くしてまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 24・38 km²
- ◆ 人口 17万3691人
- ◆ 世帯数 7万9876世帯

〔将来都市像〕
心のかような健康都市 立川
〔まちの特徴〕商業・業務が集積する多摩の中核都市で交通の要衝。国営昭和記念公園や多摩川、玉川上水など自然にも恵まれたまち



立川市長 清水庄平



〔特産品〕ウド(出荷量東京都第1位)、うどん、ライオン、うどパイ、ウドあられ、カクテル「立川美人」
〔観光〕普濟寺、諏訪神社、国営昭和記念公園、立川防災館、ファール立川アート群、玉川上水、立川競輪場
〔イベント〕春の楽市、秋の楽市、立川まつり国営昭和記念公園花火大会、立川よいと祭り、立川の夏・祭、立川フラメンコ

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

明るく元気な日高市の実現に向けて

企業誘致によるまちづくり

自治体間競争の時代といわれる中で、魅力ある自治体として輝いていくためには、地域の特性を把



多くの観光客でにぎわう巾着田の「曼珠沙華まつり」

握した上で、的確に対応し、活用するまちづくりが必要です。

本市の特性としては「優れた企業適地を有している」ことが挙げられます。この地域は、①地震が少なく、一年を通じて温暖という自然的条件②首都圏中央連絡自動車道(圏央道)の2つのインターチェンジ(狭山日高IC、圏央鶴ヶ島IC)に近接し、交通便利性に恵まれているという社会的条件を備えています。そこに、圏央道が全線開通すれば、東西交通の要衝として全国の物流の集積地となるポテンシャルを持つのではないかと考えます。

この利点を生かし、本市は積極的な企業誘致を展開してきました。平成10年に県内初の企業誘致担当を設置し、ワンストップサービス体制を整えるとともに、都市計画法上の土地利用の規制緩和策を有

効に活用してきました。また、進出していただいた企業トップの方々と私どもの胸襟を開いた情報交換会を毎年開催しています。

その結果、平成10年度から20年度にかけて、53社の企業に進出していただきました。2200人の新規雇用を創出することができ、税収増も年間約3億5千万円となりました。

工業団地の整備や助成金制度の創設といった特別の政策によらずにこうした成果を挙げたことで、本市は全国から注目を浴び、多くの自治体からご視察を受けているところです。

このように企業誘致は、財政の強化や地域の活性化の面で大変な効果が期待できます。今後も、生活環境や自然へ十分に配慮しながら、積極的に推進していきたいと考えています。

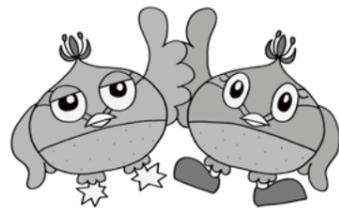
自然と歴史を生かしたまちづくり

優れた企業適地を有する一方で、本市は県内随一の清流といわれる高麗川や、山と溪谷社が選んだ「関東百名山」の一つである日和田山、秋になると100万本の曼珠沙華が咲き誇る巾着田など、豊かな自然にも恵まれています。また、霊亀2(716)年の高麗郡創設からの悠久の歴史を有しています。初代郡長である高麗王若光を祭った高麗神社は出世の神としても有名で、多くの方々が参拝に訪れます。

このように、首都近郊にありながら豊かな自然と悠久の歴史に恵まれているという特性を生かし、観光振興にも積極的に取り組んでいます。特に、巾着田は曼珠沙華の日本一の群生地として全国的に有名になり、最盛期に開催される「曼珠沙華まつり」には約30万人の観光客に訪れていただいております。

昨年、巾着田と日和田山のちょうど中間に位置する古民家「旧新井家住宅(敷地面積約1万3000㎡)」を市財として取得することができました。この辺りの景観は、里山の原風景として、市民のみならず観光客の皆さまにも広く親しまれています。今後は、「旧新井家住宅」を景観の核として保全・活用し、さらなる地域活性化を図りたいと考えています。

また、このところの「ゆるキャラ」ブームを受け、本市もマスコットキャラクターの作成を行うこととしました。市内全小学校の児童による投票で、デザインおよび名称を決定しました。市の鳥カワセミをベースに、ボディは特産品のクリ、頭には曼珠沙華をあしらったデザインで、男の子は「くりっぴー」、女の子は「くりっぴー」とい



日高市マスコットキャラクター。(左の男の子が「くりっぴー」、右の女の子が「くりっぴー」)

う名前です。4月にはいよいよデビューです。「親のひいき目」と笑われてしまうかもしれませんが、とても愛嬌のあるキャラクターだと思います。いずれは、市の観光大使として全国に羽ばたけるよう大切に育てていきたいと考えています。

子育て支援のまちづくり

本市のもう一つの特性として、人口の増加が挙げられます。人口減少が進む自治体が多い中、本市の人口はこの3年間に約4%増加しています。政令指定都市であるさいたま市を除く県内39市の中で、5番目に高い率となっています。人口増加の要因は、若い世代の流入です。本市ではこの世代の切実な問題である子育て支援にも、積極的に取り組んできました。

まず、保育所の充実に取り組み、民間の力も借りながら3年間で入所定員数を約3割増やすことができました。同時に、学童保育室の充実にも努め、定員数を約4割増加させたところです。そのほか、地域のボランティアによる「放課後子ども教室」の設置を支援し、地域ぐるみでの子育て体制の構築に取

り取り組んでいます。

以上、本市の取り組みの一部を紹介させていただきましたが、厳しい行政運営が続く中、魅力あるまちづくりを進めていくためには、これまで以上に「自治体経営」の品質向上を図っていかなくてはなりません。そこで、昨年度から、「Challenge(チャレンジ)」「Check(チェック)」「Cost down(コストダウン)」「Communication(コミュニケーション)」「ケイション」の4つの頭文字から取った「4C」を行政運営理念とす

プロフィール

- ◆ 面積 47・50 km²
- ◆ 人口 5万6492人
- ◆ 世帯数 2万753世帯

- 〔将来都市像〕 季節の風と出会うまち 日高
- 〔まちの特徴〕 積極的に企業誘致を実施。日本一の曼珠沙華の群生地「巾着田」が有名
- 〔特産品〕 ウド、クリ、ブルーベリー、



日高市長 大沢幸夫



- 乳製品、豚肉(サイボク)、地酒(高麗王)、生醤油
- 〔観光〕 巾着田、高麗神社、聖天院、加藤牧場、高麗川、日和田山
- 〔イベント〕 巾着田菜の花まつり、巾着田曼珠沙華まつり、市民まつり、日高かわせみマラソン大会、手つくり風揚げ大会

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

「水と緑の大地 田園空間都市」の構築

「協働」と「交流」のまちづくり

人口減少、少子高齢化、高度情報化、市町村合併など社会環境が急速に変化する中で、市民ニーズ



首都圏をはじめ県内外から参加があった「田舎体験ツアー」での田植えの様子

はより多様化、複雑化しています。そのような中、市政に積極的に参加し、まちづくりに主体的にかかわり、自らの能力を生かしながら社会参加をしたいという市民が増えてきています。そこで、沼田市では平成19年4月、沼田市市民協働推進基本方針「みんなで育てよう 協働の森林」を策定し、「協働の担い手を育て」「地域の市民活動を活かす・つなぐ」「協働を促進する」という3つの目標を掲げました。現在、「まちづくりは人づくり」の原点に立ち返り、市民との協働による創造性豊かで明るく元気なまちづくりに取り組んでいます。今後は市民活動の活性化と協働の推進を図るための活動拠点となる「市民活動支援センター」の整備などを進めていきたいと考えております。

また、二地域居住と定住の促進

を図るため、「グリーン・ツーリズム」「観光客の受け入れ態勢の整備」「特産品の販路拡大」をテーマに他都市との交流を進めています。具体的には、太田市をはじめとする群馬県東毛地域や新宿区、板橋区、府中市、川口市などと物産や文化面で交流しています。

また、関越自動車道、国道17号、上越新幹線からなる「縦軸」と「日本ロマンチック街道」と称される小諸市から日光市までの国道120号、145号などの「横軸」が交差する要衝であることから、今後は歴史を生かしたまちづくりを行いたいと考えております。その際、沼田藩主だった真田氏を生かしたまちづくりを上田市などと連携しながら進め、来訪者の受け入れと交流人口の拡大などにより地域全体の活性化を実現していきたいと思っております。



7月中旬から8月中旬に見ごろを迎える「たんばらラベンダーパーク」

つまり、あらゆる生命のよりどころである水源地と、その水をかん養する広大な森林の中で日々の生活が営まれているといえます。また、「玉原高原」「吹割の滝」といったスケールの大きな自然や豊富な温泉群、リゾート施設などが、わが国でも有数の観光資源に恵まれています。そこで、豊かな田園空間の中で、地域間の連携や他都市との交流を深めながら、大自然と

人々が共生する「うるおい」「ゆとり」「やすらぎ」の交流拠点として、「活気」と「交流」にあふれた個性輝くまちを目指しています。

また、豊富な森林資源の保全に力を入れることで、地球温暖化の原因とされる二酸化炭素の吸収量の増加を図っています。そして、現在、その増加分を二酸化炭素の排出量の多い自治体との間で相殺する「カーボン・オフセット」の実

現に向け、交流事業を展開している都市と協議を進めているところ

です。さらに、平成22年秋には、本市にある「群馬県立森林公園21世紀の森」において、「樹の息吹 育ててつなぐ 地球(ほし)の未来」をテーマとする第34回全国育樹祭が開催されるため、実効性のある環境政策の充実も図っていききたいと考えております。

おわりに

本市は、平成17年2月13日に旧白沢村、旧



日本の滝100選にも選定された「吹割の滝」

利根村を編入合併し、現在に至っています。そこで、自立した地方自治体として、地域の課題に主体的に取り組み、市民に対する責任を果たしていくことが、「地方分権」の目指すべきところであるとの思いから、旧合併特例法に基づく地域自治体を合併前の白沢村と利根村の区域に設置しました。この地域自治区での活動などを通じて新市としての一体感の醸成を図りながら、これまで築き上げてきた地域への思いと誇りを大切し、将来

にわたってそれぞれの地域が発展できるように取り組んでまいります。中国の儒学者であり、性善説を主張した孟子は「天の時は地の利にしかず、地の利は人の和にしかず」と人々の団結の重要性を説いています。合併から5年目を迎え、新市のさらなる一体感の醸成と地域づくりの推進を図るとともに、将来像とする「水と緑の大地 田園空間都市」の構築に向け、市民の皆さんと協働し、一層の努力を傾注していきたいと考えております。

プロフィール

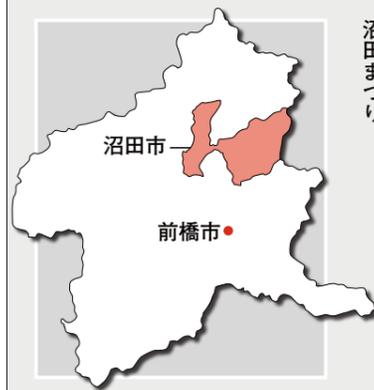
- ◆ 面積 443.37km²
- ◆ 人口 5万3986人
- ◆ 世帯数 1万9947世帯

〔特産品〕リンゴ・ブドウ・サクラン

〔まちの特徴〕利根川とその支流により形成された日本有数の河岸段丘の上に広がる市街地



沼田市長 星野已喜雄



〔観光〕玉原高原、迦葉山弥勒寺、沼田公園、吹割の滝、老神温泉、しゃくなげの湯、白沢高原温泉望郷の湯

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

みんなのでつくる、きらめく弥富 自然と都市が調和する元気交流空間

はじめに

弥富市は木曾川の清流にはぐくまれた水郷文化のまちとして、発展してきました。

市の北部は名古屋市から20km圏内にあり、鉄道はJR、近鉄、名鉄の三路線が走るという立地に恵まれています。若い世代を中心に人口の流入が続ぎ、名古屋都市圏における住宅都市としての役割を果たしています。

中部の農業振興地域は、金魚の



市のキャラクター「きんちゃん」

全品種である30種がそろう、日本一の金魚の生産地として、その名をはせています。また、伊勢湾台風の影響を教訓として、早くから早場米の育成に取り組んでいることで知られ、出荷時期は8月上旬と愛知県では一番です。野菜では、ミツバの水耕栽培やトマトのハウス栽培など都市近郊型農業が盛んです。

本市は海拔ゼロメートル地帯であり、先人たちの常に水との闘いの中、干拓が繰り返されてきました。南部の港湾地域は、今もなお土地造成が行われ、市の面積が市民の夢とともに広がり続けている全国的にも希少なまちです。

て発展してきました。近年も、弥富ふ頭、鍋田ふ頭へ誘致した多数の企業が操業を始めています。また、新型飛行機「ボーイング787ドリームライナー」の製造工場が8月に竣工予定のほか、国家的プロジェクトである名古屋港の「鍋田ふ頭コンテナターミナル第三バース」の着手など、港を核とした独自の産業基盤が確立しつつあります。

港湾地域の開発は、市の発展に欠くことのできないものです。名古屋港や東名阪自動車道、伊勢湾岸自動車道、中部国際空港など陸海、空の円滑な交通ネットワーク機能を十分に活用し、さらなる発展を目指していきます。

都市計画マスタープランがスタート

本年度からスタートする「第一次

「集中改革プラン改訂版」を策定しました。行政サービスの創造と再構築を目指し、総合的な施策を展開していきます。

二つ目は、「安全・安心なまちづくり」です。災害に強いまちづくりへの取り組みとして、大規模な地震などの災害発生の際、防災活動の拠点となる広場を整備していきます。また、平成22年度の完了をめどに小、中学校の耐震化事業を進めています。さらに、すべての市民がより便利に安心して生活できるようにケーブルテレビ網の市内全域の整備や橋上駅舎のエレベーター設置によるバリアフリー化、自主防災組織の育成、自主防犯パトロール隊の結成など、地域ぐるみの安全確保に向けた取り組みを推進しています。

三つ目は、「環境基盤整備」です。子どもたちがすくすくと育つ環境整備については、児童数が千人を超す過大規模校を解消する取り組みとして、分離校建設に向けた施策を実施しています。そのほかにも、児童館、児童クラブの開設や子育て支援センターなどを併設した保育所の建設、中学3年生までの「医療費完全無料化」制度の継続など、少子化対策と子育て支援にも積極的に取り組んでいます。

また、都市基盤の構築については、快適で衛生的な生活を支えるための下水道の整備や市民生活、



弥富市は愛知県内トップを切る早場米の産地

社会経済活動を支える道路ネットワークの整備に努めています。

おわりに

景気後退の影響を受け、本市の法人市民税は前年度対比47・9%減と大きく落ち込み、財政的に厳しい状況を迎えています。自治体そのものが大きな変革期にあり、このほかにもさまざまな問題に直面しています。

このような状況の中、今後とも職員の意識改革をさらに図り、前

プロフィール

- ◆ 面積 48・92km² ※境界未定部分あり
- ◆ 人口 4万4321人
- ◆ 世帯数 1万5653世帯

〔特来都市像〕 みんなでつくるきらめく弥富 自然と都市が調和する元気交流空間

〔まちの特徴〕 木曾川下流に位置した金魚生産高日本一の水郷のまち。南部は名古屋港の物流拠点と臨海工業地帯



弥富市長 服部彰文



〔市町村合併〕平成18年4月、弥富町、十四山村で編入合併

〔特産品〕金魚(全30種がそろう日本一の生産地)、白文鳥(日本唯一の発祥地)、早場米、トマト、イチジク、ミツバ

〔観光〕海南こどもの国、弥富野鳥園、森津の藤、三ツ又池公園、富浜緑地、弥富市歴史民俗資料館

〔イベント〕やとみ春まつり、健康づくりフェスティバル、金魚日本一大会

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。



整備の進む「鍋田ふ頭コンテナターミナル」

総合計画・都市計画マスタープランに基づき、弥富市のまちづくりがいよいよ始まります。私は、市政の取り組みとして三つの柱を基本方針として推進しています。

まず一つ目は、「行政改革の推進」です。昨年12月、市民参画と協働による新しい時代への対応と財政健全化を目指し、66項目からなる例、慣習にとらわれることなく創意工夫を凝らし、住みやすさが実感できるまちの創造に向けて尽力していきたいと考えています。私自身が市政のリーダーとして先頭に立ち、職員一丸となって、次の世代を担う子どもたちが夢と希望の持てるような21世紀にふさわしい元気なまちづくりを目指し、まい進してまいります。

弥富市は、金魚の全品種30種類がすべてそろう一大産地です。皆さまのご用命をお待ちしています。

わが

宮津から全国、そして世界へ！

市民の誇り「天橋立」を有して

宮津市は、日本三景の一つに数えられ、国の特別名勝の一つであ



龍が天に昇るように見えるところから名付けられた天橋立を代表する景観「飛龍観」

る「天橋立」を有しています。この天橋立は、幅が約20mから170m、全長が約3・6kmの砂嘴でできた砂浜で、大小8000本の松が茂っています。その名前は、形が天に舞う白い架け橋のように見えることから付けられました。天橋立は、まさに市民の誇りであり、わが国の大きな宝です。これを世界の宝として次世代に継承していきたいとの思いから、現在、世界遺産の登録に向けて取り組んでいます。

また、本市は細川忠興・ガラシヤの時代から城下町や北前船の港町として栄え、与謝蕪村ら文人が訪れた歴史と文化の地でもあります。そのため、観光を基軸にしたまちづくりを進めていきたいと考えています。

しかしながら、本市の経済は、産業の停滞、若者人口の減少、地

域力の衰退という構造的なマイナスの連鎖に加え、100年に一度ともいわれる世界的な金融危機のあおりも受け、危機的な状況に陥っています。そこで、この危機から脱却するため、市街地の豊富な歴史文化資源、山間部の豊かな自然や生活文化を生かす取り組みのほか、海の幸、山の幸を活用した魅力ある食づくりなどにより、「まちなか観光」を振興していきたいと考えています。今後は、「ピンチはチャンスでもある」という考えの下、地域の再生に向け、市民との協働で次に述べる4つのリード戦略でまちづくりを進めていきます。

元氣な宮津を目指す 4つのリード戦略

4つのリード戦略の一つ目は、「若者の定住できる環境づくり」です。これは、まちづくりの根幹と

ずつプラスしていき、生産・販売活動などあらゆる面から、さらに大きな展開をしていきたいと思

四つ目は、天橋立の世界遺産登録をはじめとする「環境文化力の向上」です。「環境の時代」といわれる21世紀にあつては、地球環境を守っていくことが人類の責務であることは、今や全世界共通の認識となつています。この点でも、世界の宝ともいえる「天橋立」の保全・継承を大きな目標として、水環境、

里山、森林環境、歴史・文化を重んじた景観形成などに取り組み、環境先進地として世界にアピールしていきたいと考えています。

多様な手段で 魅力を発信

天橋立の世界遺産登録に向け、本市では昨年、京都府などとともに文化庁に対して世界遺産暫定一覧表記載資産候補としての提案を行いました。結果、落選はしたものの、暫定リスト入りできなかった案件の中ではトップクラスの評価を受



多くの市民がかかわった地域映画「天国はまだ遠く」の撮影シーン

けました。このことから、もう少し課題を克服すれば、暫定リスト入りに手が届くと手応えを感じています。昨年11月には、多くの市民がかかわった地域映画『天国はまだ遠く』が全国で上映されました。この映画を通じて、宮津、そして天橋立を多くの人々に発信していきたいと思

ます。この大会を契機に、里地や里山の景観、文化などの魅力をアピールしていきたいと考えています。このほかにも、インターネット放送局「丹後・宮津TV」の開局などに代表されるさまざまな市民活動を支えるため、「まちづくり基金」や「ふるさと宮津応援寄附」を通じて全国の皆さまに支援をお願いし、たくさんのご賛同をいただいております。

は、京都縦貫自動車道が全面開通します。これにより、京都市内から本市へのアクセスは1時間半、とても便利になります。また、舞鶴若狭自動車道や丹後半島を通る鳥取豊岡宮津自動車道などの道路網も延伸されます。これをまちなか観光にうまく生かしていきたいと考えています。今後は観光を基軸としたまちづくりを進め、宮津の魅力を全国、そして世界へと発信していきたいと思

プロフィール

- ◆ 面積 169・32km ※境界未定部分あり
- ◆ 人口 2万1136人
- ◆ 世帯数 8360世帯

〔特来都市像〕自然と文化の架け橋 海園都市みやつ

〔まちの特徴〕天然の良港宮津湾を中心として、日本海若狭湾に面し、特別名勝の1つ「天橋立」がある。



宮津市長 井上正嗣



- 〔特産品〕オイルサーディン、智恵の餅、煉製品、山の羊とり貝、イカ徳利、松葉がに
- 〔観光〕天橋立ビューランド、智恵寺、籠神社、天橋立温泉、旧三上家住宅、カトリック宮津教会
- 〔イベント〕文殊堂出船祭、宮津燈籠流し花火大会、赤ちゃん初土俵入り、丹後天橋立ツアーデーマーチ

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

誇りに思う、わがまちの市民力

市民に支えられた
さまざまな取り組み

延岡市は「市民力・地域力・都市力が躍動するまち のべおか」を市像に掲げ、市民と行政が一体となった市民協働のまちづくりを進めています。現在、各種市民活動団体、NPO、ボランティア団体



国内外のアスリートが多数参加する「ゴールデンゲームズinのべおか」

などによる社会貢献活動が積極的に展開され、市民が主体となったイベントやスポーツ、文化活動も活発に行われています。

市民に支えられている本市のまちづくりの代表例として、トップアスリートへの登竜門として年々盛り上がりを見せている「延岡西日本マラソン」(2月開催)やヨーロッパスタイルのトラックレースとして知られ、国内外の多くのアスリートが参加する「ゴールデンゲームズinのべおか」(5月開催)などがあります。これらは、陸上や柔道競技などで多くのオリンピック選手を輩出している本市のアスリートタウンづくりの一環で行っているものでもあります。また、「NPO法人アスリートタウンのべおか」や「NATS(延岡アスリートタウンサポーターズ)」といった市民団体と多くの市民が大会運営をサ

ポートし、大きな役割を果たしています。

かつて内藤家の城下町として栄えた本市には数多くの歴史的資料や遺産が存在しています。そこで、歴史や文化を生かしたまちづくりにも積極的に取り組んでいます。そして、ここでも市民の力が大いに発揮されています。毎年10月、延岡城跡二の丸広場において、内藤家伝来の能面を実際に使用した「のべおか天下」一薪能」が開催されています。この催しには市内外から多くの人が訪れ、高い評価を得ておりますが、企画、運営を行っているのは「NPO法人のべおか天下」市民交流機構」で、これも市民主体の取り組みです。

そのほかにも、延岡アースデイ実行委員会による環境保全活動や宮崎県北部の最大の夏祭りである「まつりのべおか」、さらには延岡

市郷土芸能大会や延岡フィルハーモニー管弦楽団の定期演奏会、師走の風物詩となっている「のべおか第九演奏会」、市民ミュージカルや市民劇団など、市民と行政のパートナーシップの下、市民主体の取り組みが数多く行われています。

このような市民力を背景として、これまで本市では市民協働のまちづくりの土壌ははぐくまれてきました。さらに昨年4月には市民活動団体などの活動拠点となる「市民協働まちづくりセンター」をオープンさせました。今後は、このセンターを核として市民活動の輪を一層広げ、市民と行政が一体となった協働のまちづくりを今以上に前進させていきたいと考えています。

災害時にも市民パワーが威力を発揮

本市は自然環境に恵まれた山紫水明のまちですが、一方で水害をはじめとする自然災害により、甚

大な被害に見舞われてきた経緯があります。そのため、これまでの教訓を踏まえて、地域自主防災組織を拡充し、地域防災力の向上を図るとともに、災害ボランティアの登録制を導入するなど、防災対策を進めています。ここでも特に、自助・共助による取り組みが際立っています。

平成18年9月には、大規模な竜巻により広範な被害が発生しましたが、多くの市民がボランティア活動に参加し、早期の復旧に大きく貢献しました。平成19年8月の台風5号では、過去に例のないほ

ど大量の流木が漂着しました。市内の海岸の約7kmにわたって「海岸清掃大作戦」が実施され、市内外から約3400人ものボランティアの方々に参加していただきました。これらのことは、延岡に根付いた市民活動の素晴らしさをあらためて証明してくれたものと考えています。

新たな延岡づくりを総力戦で

本市ではこのように、市民と行政の協働によるまちづくりを基本に、一昨年の合併以降、地域の特性を生かしつつ一体感をはぐくむまちづくり、さらには道州制を見据えた東九州の拠点都市づくりにも、精力的に取り組んでいます。

現在、本市は国土交通省の国土形成計画「九州圏広域地方計画(中間整理)」において、九州で10カ所ある基幹都市の一つに位置付けられています。また、総務省の「定住自立圏構想」においても中心市としての役割が期待されています。

このような状況を踏まえ、この延岡の地をさらに元気にしていく取り組みを重点的かつ積極的に進めていくため、本年1月に「新生の



「市民協働まちづくりセンター」を中心に広がる市民活動の輪

べおかプロジェクト」を策定しまし

た。これは「にぎわいの再生」と「東九州の基幹都市としての機能整備」を実現するため、「雇用創出」「中心市街地の活性化」「公共交通の充実」の3つのメインプロジェクトと、それを下から支える「地域医療の充実」「教育振興」「生活環境施設の整備」の3つのベースプロジェクトからなる、本市の長期総合計画をリードする中期的な戦略プロジェクトです。このプロジェクトに、今後、市民の力を結集して取り組

んでいきたいと考えています。

地域経済や雇用環境など、地方自治体を取り巻く環境は一段と厳しさを増しています。さらに、本市の場合には、地域医療の問題をはじめ、解決すべき課題が山積しています。

そのような中で本市では今後とも、市民力を地域の貴重な財産、機動力として、市民の皆さんが将来にわたって夢と希望を持つことができる元気な延岡づくりにまい進していきたいと考えております。

プロフィール

- ◆ 面積 867.99km²
- ◆ 人口 13万1326人
- ◆ 世帯数 5万3086世帯

〔将来都市像〕市民力・地域力・都市力が躍動するまち のべおか

〔まちの特徴〕九州第2位の市域に、東九州屈指の工業集積地、農林水産業、豊かな自然が調和した都市

〔市町村合併〕平成18年2月、北方町、



延岡市長 首藤正治



北浦町を編入合併。平成19年3月、北川町を編入合併
〔特産品〕むむか本サバ、空飛ぶ新玉ネギ、伊勢エビ、アユ、次郎柿
〔観光〕愛宕山、延岡城跡、今山、浜木綿村、ETORAND速日の峰、鏡山
〔イベント〕延岡西日本マラソン、延岡大師まつり、ゴールデンゲームズinのべおか、まつりのべおか、のべおか天下一薪能

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。